

会告

第 21 回（2017 年度）認定輸血検査技師試験の結果

平成 29 年 9 月 29 日

認定輸血検査技師制度
協議会 会長 岡崎仁
審議会 会長 加藤栄史
試験委員長 加藤栄史

本年度より試験制度が変更され、これまでの一次試験および筆記試験を一次試験とし、実技試験を二次試験とした。さらに、一次試験合格者のみが二次試験の受験資格を有する事とした。ただし、2015 年および 2016 年に筆記試験を合格した受験者は二次試験のみを受験し、実技試験を合格した受験者は一次試験のみを受験する事とした。また、実技試験の採点方式も、これまでの減点法から加点法に変更した。

【1】 第 21 回 一次試験（筆記試験）

1. 受験申請者数：305 名

実受験者数：290 名（辞退者 12 名、欠席者 3 名）

2. 結果

1) 平均：63.3 点（最高 86.9 点、最低 30.3 点）

2) 合格者数：127 名（合格率 43.8%、127/290）

・ 一次・二次試験受験：119 名（合格率 44.4%、119/268）

・ 一次試験のみ受験：8 名（合格率 34.8%、8/22）

3. 内容と講評

認定輸血検査技師制度第 21 回一次試験（筆記試験）は 6 月 10 日（土）、ベルサール神保町（東京）を会場に行われた。試験時間は 2 時間で、マークシート問題と記述問題とし、内容は輸血医学の基礎、輸血検査（基礎、不規則抗体同定など）、輸血に関連する臨床、計算問題などとした。昨年までの一次試験と異なり、輸血検査技師として修得すべき問題を網羅的に出題し、難易度は昨年の二次試験の筆記試験とほぼ同じであった。その結果、今年の平均点は 63.3 点で

あり、合格率も 43.8%であり、昨年の筆記試験（二次試験）とほぼ同じ平均点（65.1点）であった。

【2】 第 21 回 二次試験（実技試験）結果

2. 受験者数

- ・ 申請者 164 名で、欠席者 0 名で、実受験者は 164 名であった。
- ・ 実受験者 164 名中、新規受験者は 71 名（43.3%）、再受験者 93 名（56.7%）であった。

3. 試験結果

1) 成績

平均点：85.1（53.5）、最高点：93.3（94.2）、最低点：67.7（0）

（ ）は 2016 年の成績

血液型：抗体：カラムの配点比率は 1：1：1

2) 二次試験合格

- ・ 合格者数：101 名（合格率 61.6%、101/164）であった。
 - ・ 一次・二次試験受験者：68 名（合格率 57.1%、68/119）
 - ・ 二次試験のみ受験者：33 名（合格率 73.3%、33/45）

4. 試験概要と成績について

1) 概要

認定輸血検査技師制度第 21 回二次試験（実技試験）は 8 月 5 日（土）、大阪医科大学を会場に行われた。申請者 164 名中、欠席者がいないため、実受験者は 164 名であった。これは昨年の 266 名に比し、約 100 名の減少であった。この理由として、1）本年度から試験制度が変更され、様子を観察している受験者の存在、2）一次試験で受験者を選抜していることなどが考えられる。新規受験者が 71 名、再受験者が 48 名、二次試験のみ受験者が 45 名であった。

全体の合格率は 61.6%であり、昨年の実技試験（二次試験）の 33.2%に比べ、高率であった。また、二次試験のみの合格率が 73.3%と昨年の 62.2%より高率であった。さらに、昨年の平均点 53.5 点に対し、今年平均点は 85.1 点と高得点であった。この好成績の要因として、1）採点方式が減点法から加点法に変更されたこと、2）一次試験による選別で受験者の習得レベルが高いこと、3）試験内容が実技試験のみで、試験準備期間において実技に集

中して学習することが出来たことなどが考えられる。

2) 実技試験の評価

血液型検査の試験では及第点に達した受験者は 88.4%と高率であった。事実、1) 解答が書かれていない空欄が少ない、2) 選択する血液製剤の血液型の不正解が少ないなど、受験者が血液型検査を良く修得されている結果と考えられる。ただし、一部の受験者に血液型判定に関する必須回答項目に不正解があり、また、追加すべき検査を未実施など、更なる研修が必要な受験者が認められた。

今年から不規則抗体検査試験に試験管法による交差適合試験を追加した。問題内容も昨年までと異なった問題を出題した。さらに、問題文が長文であった。これら事から、大半の受験者が試験時間内に実技を終了する事が出来なかった。この事を考慮して、受験者の習得度を正確に把握でき、受験者間に不公平がない事を念頭に採点を実施した。その結果、及第点を取得した受験者は 76.2%と昨年の 68.0%に比して好成績であった。ただし、受験番号未記載、患者氏名誤記、必須回答項目の不正解などが一部の受験者に認められた。

カラム凝集法の問題は昨年と同様の試験内容で実施した。検査手技に関しては殆どの受験者が正しく実施されていた。この結果、及第点を取得した受験者は 90.9%と好成績であった。

3) 評価について

今回、血液型・抗体・カラムの全てにおいて及第点を取得し、必須回答項目が正解の受験者のみが合格となる。その結果、101名(61.6%)が合格となった。評価ランクに関しては、一定の基準にて A~F に分け、絶対的評価とした。各科目で基準点以上を A~C とし、基準点未満を D~F に分けた。さらに、必須回答項目が不正解、受験者番号未記載、患者氏名の誤記などは F 評価とした。

5. まとめ

今回、二次試験(実技試験)はこれまでの中で、最も高い合格率であった。これは、採点方式が減点法から加点法に変更された事もあるが、系統的に正確な知識、手技に十分な時間を掛けて修得した結果と考えられる。

【3】 第 21 回認定輸血検査技試験の総合結果

1. 受験者数

- ・ 申請者 350 名で、辞退者 12 名、欠席者 3 名で、実受験者は 335 名であった。
- ・ 実受験者 335 名中、新規受験者 152 名 (45.4%)、再受験者 183 名 (54.6%) 中、一次試験のみ 22 名、二次試験のみ 45 名であった。

2. 総合判定 (一次・二次試験の総合)

- ・ 一次・二次試験総受験者数 335 名中、合格者数は 109 名 (合格率 32.5%)
- ・ 一次・二次試験受験者 268 名中、合格者数は 68 名 (合格率 25.4%)
- ・ 一次試験のみ受験者 22 名中、合格者数は 8 名 (合格率 34.8%)
- ・ 二次試験のみ受験者 45 名中、合格者数は 33 名 (合格率 73.3%)

3. 試験成績について

全体の合格率は 32.5% (109/335) で、昨年の 25.9% (69/266) に比較して非常に高い合格率であった。単一科目受験者の合格率は一次試験 (筆記試験) が 34.8%、二次試験 (実技試験) が 73.3%であったのに対し、一次・二次の両試験受験者の合格率は 25.4%と不良であったが、昨年の 15.9%に比べ高率であった。今年の実験者は輸血医学の知識、技術ともに勉強され、努力された結果、好成績が認められたと考えられる。今回、残念ながら合格に至らなかった受験者は、更なる研磨を積まれ、来年以降に合格される事を希望する。